

リサーチグループの名称		脊髄脊椎疾患リサーチグループ			
リサーチグループの名称(英語)		Supine and spinal cord research group			
名前	所属部局	職名	専門	学位	役割分担
阿久津 博義	医学医療系	講師	脳神経外科	博士(医学)	代表者
松村 明	医学医療系	教授	脳神経外科	医学博士	研究の総括
中井 啓	医学医療系	講師	脳神経外科	博士(医学)	臨床応用
井原 哲	附属病院	病院講師	脳神経外科		電気生理学モニタ
安田 貢	医学医療系	講師	救急・脳神経外科		

キーワード(5つまで)	脊髄	脊椎	術中モニタリング	術中情報	
キーワード(英語)	spine	spinal cord	intraoperative monitoring	intraoperative informative science	
研究グループHP	URLを記載してください。 http://www.md.tsukuba.ac.jp/clinical-med/neurosurgery/index.html				
研究グループ概要(100字程度)					
<p>脊髄脊椎疾患は、変性疾患が多くをしめる一方、脊髄髄内腫瘍など希少疾患も存在する。これらを共通して扱うリサーチグループを提案し、患者症状の改善を主眼とし、手術成績向上にかかわる新規技術の開発研究を行う。</p>					
研究グループ概要(英語)					
<p>Though many of Spinal cord disease are degenerative diseases, there is also rare diseases, such as intramedullary spinal cord tumor. We are proposing a research group dealing with these common and rare disease, and focus the improvement of patient symptoms, conduct research involving development of new technologies to improve surgical outcomes.</p>					
設置の目的及び必要性					
<p>脊髄疾患は、患者日常生活に直接に影響を及ぼす四肢運動や、膀胱直腸機能、上位頸髄においては生命維持に必要な呼吸機能など、重要な神経機能を障害するため、その治療成績の向上、良好な予後が期待される。変性疾患は、本邦の高齢化とともにその罹患率が上昇しており、また脊髄腫瘍は、中枢神経腫瘍のなかでもその頻度は1-2%とまれであり、多くの症例を集積した治療成績の報告は少ない。病理組織の多くは神経膠腫、上衣腫が知られるが予後不良であることも多い。 本グループ母体の本学脳神経外科学教室は、変性疾患、脊髄腫瘍いずれも単一施設においてで診断治療が系統的に可能な部門であり、総合して治療成績の向上に向けた技術開発に有利な特徴を有する。患者症状の改善を主眼とし、手術成績向上にかかわる新規技術の開発研究を行う。これによって確立した技術に基づいた診断治療は、本対象疾患の治療成績向上に結び付くと思われる。</p>					
研究計画					
<p>主に手術成績向上にかかわる新規技術の開発、応用を主眼に研究を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 脊髄誘発電位および体性感覚誘発電位、膀胱直腸関連モニタを解析し、術中の変化と症状の予後予測についての解析を行う。 2. 術中MRIを導入し、変性疾患、髄内腫瘍において有用性を検討する。 3. 脳腫瘍手術などで行われている術中蛍光診断、脳血管手術で行われている術中蛍光血管造影を用いた手術手法を確立し、病理学的診断、血管障害の診断や、腫瘍摘出率の向上における役割を確立する。 4. 術前神経放射線学的画像検査および電気生理学的検査による予後予測因子の解析 					
研究・教育に期待される効果(箇条書き)					
<ul style="list-style-type: none"> ・術中画像情報および電気生理学的モニタリング、術中蛍光診断などを統合することによって、本来境界不明瞭な腫瘍における摘出率の向上、手術合併症の低減 ・予後予測に用いることができる術中データ、ならびに術前補助診断モダリティを抽出し、治療効果予測、予後予測を明確化する ・手術適応のより明確な基準、術後改善見込みなどを明らかにすることによって、罹患患者の満足度の向上 ・手術術式・併用化による手順標準化をおこない、手術トレーニングの効率化、具体的目標の設置 					